

床飭温奥の巻

床飭温奥之巻

Handwritten text in cursive Japanese style, including a signature and date.



特別  
ワ 3  
6915  
15



床侍 湯羹 之 事

一 撰吉日良辰を以て月日の瀬節の祝  
儀を奉る。此の儀は養月篋の扱入り  
上の老女心等を定むる。祝の儀は  
ハハコヨク子條一守とよは舞斗を  
居る。平後囀を以て吟酒を奉る  
身。養月篋の扱入り上の老女も  
祝上し此の祝の儀を奉る。

押酒  
蝶子飯



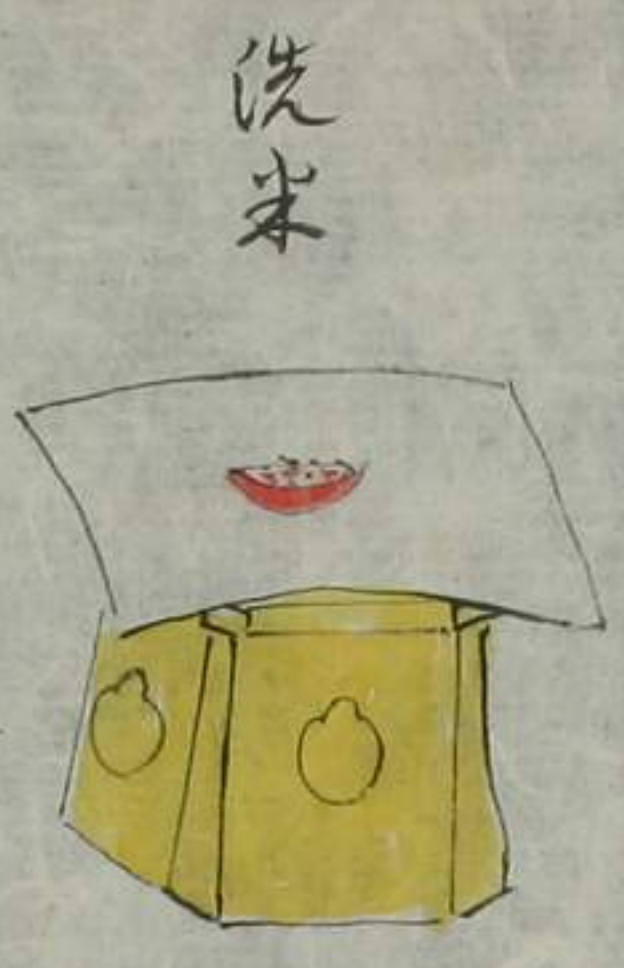
條十



戸多、千後吸の事新、次候を告  
 有、養月筈の役人云上の老女も  
 被上し此後後の様を申上



一 序神棚小中、序膳取上、籠子障  
 也、被上し、此後後の様を申上



一 序膳を七夜の月忌、三夜、初夜、二夜、  
 切多、三夜、清見、火、升、を、申、上

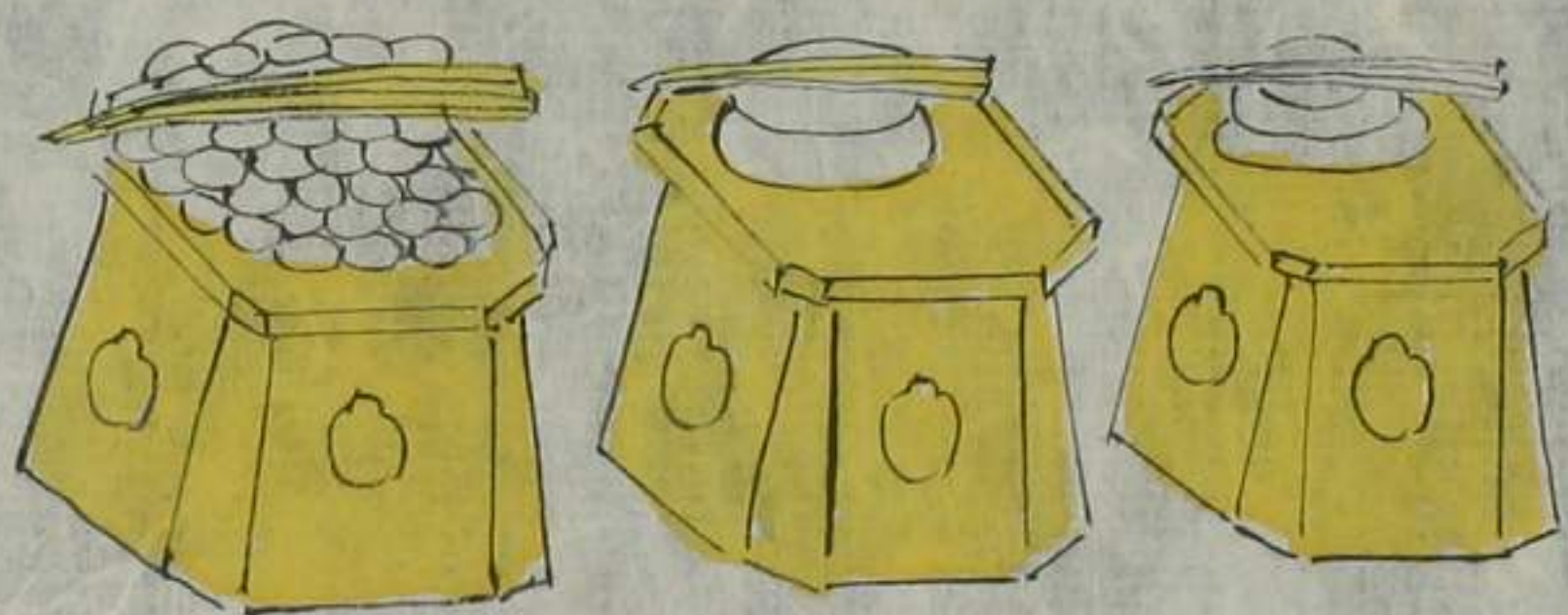
一 高懸り、二夜、打、上



大食 柳上 産石  
汁 細 鉄 頭 魚

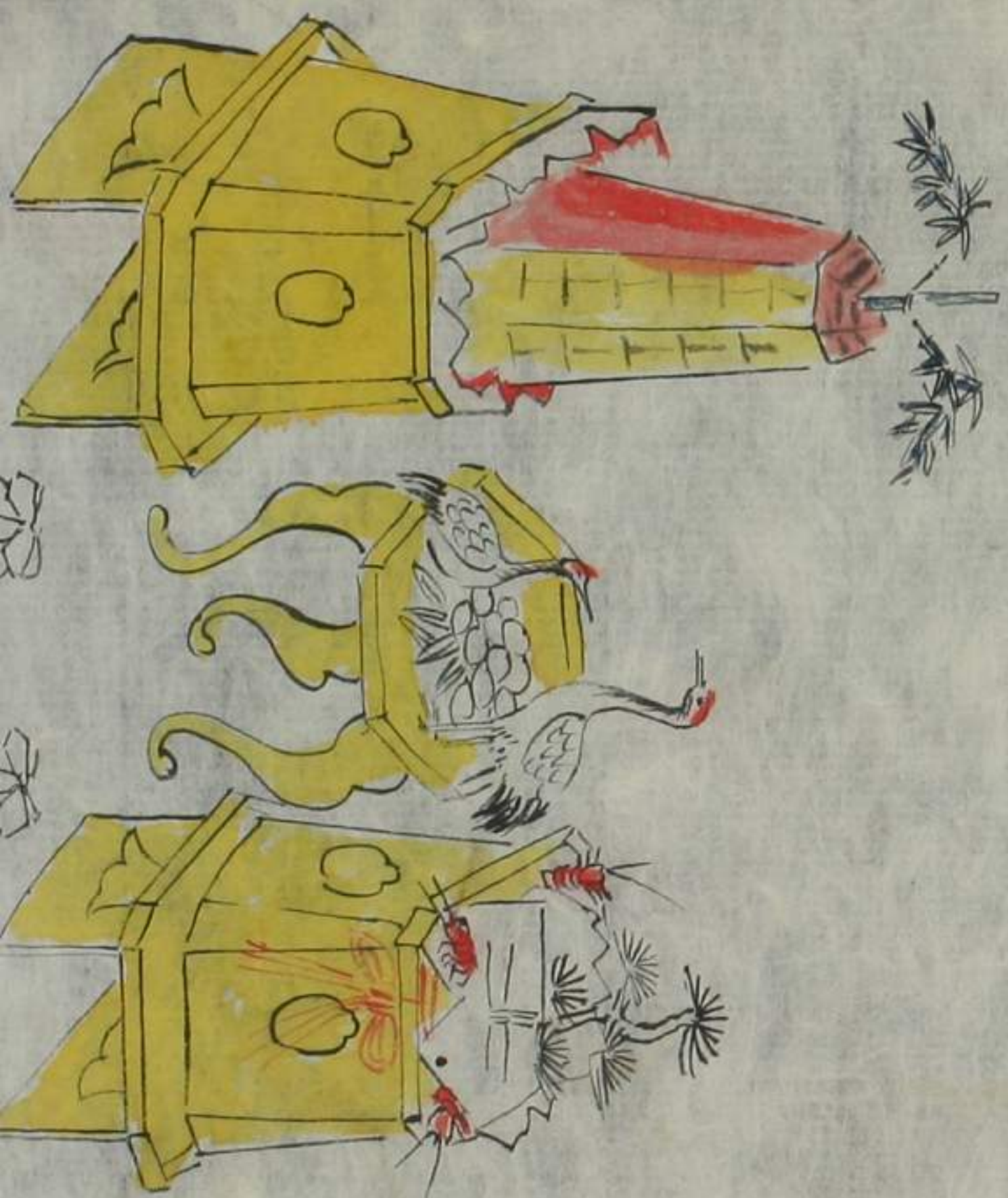


- 一 産石を七夜の月言三夜産石の三夜  
切多言産石先火升をいしあつた
- 一 高産石の二夜は打まじし
- 一 産石の三夜の産石の三夜産石の三夜  
二の荒産石の三夜産石の三夜  
公の三夜は打まじし



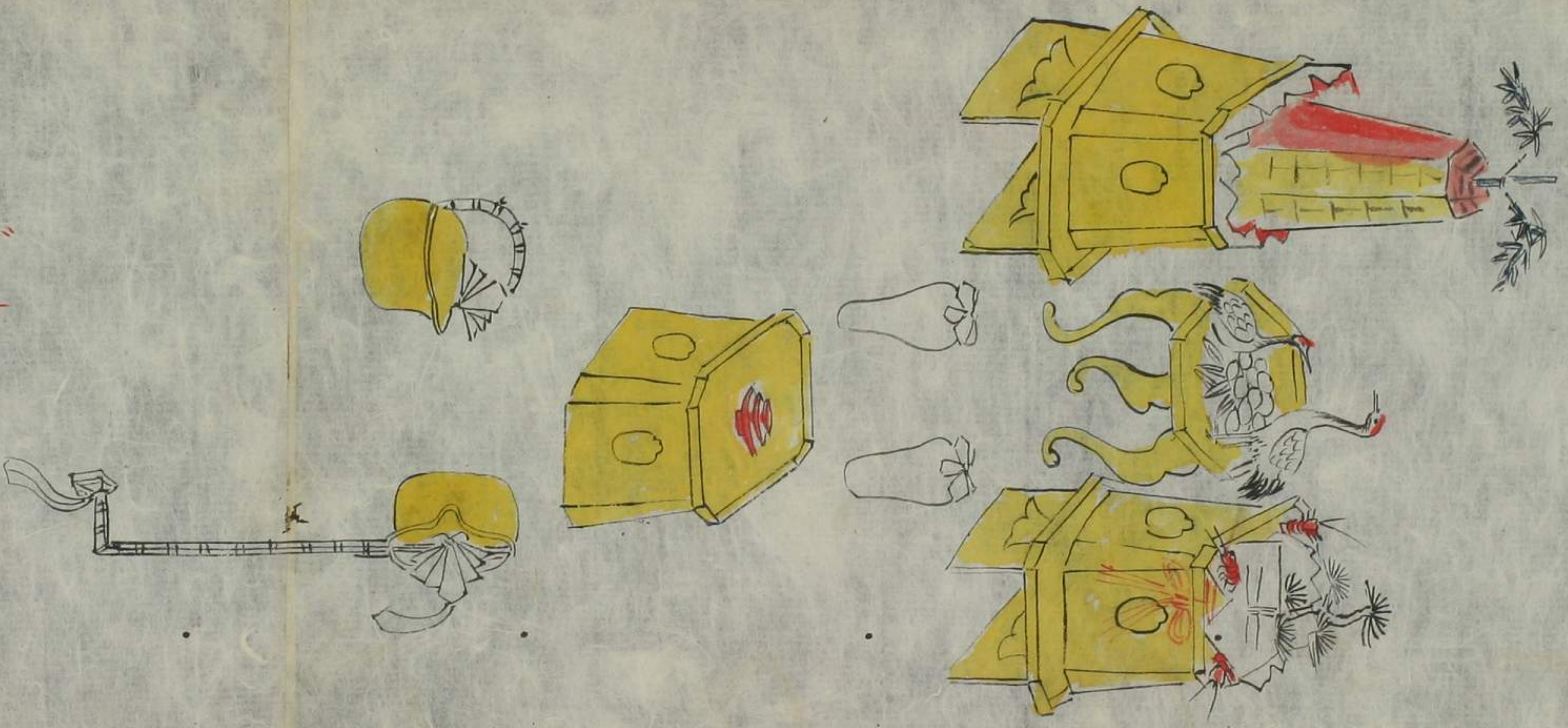
産石の傍わし一語なりらふは産石  
あり又産石の三夜は打まじし  
俵の三夜は打まじし  
は打まじし中興の三夜は打まじし

- 一 七夜産石の三夜中興の三夜は打まじし  
の三夜は打まじし  
産石の三夜は打まじし  
ちた小三夜は打まじし  
三夜は打まじし  
を産石



俵付の面衣の取し  
 中興の多ハ何

七夜・年待のり中ノ節の三夜  
 カ子備、上二唯破の夜作  
 障子の敷子等式に列を  
 左小ニ子、右の三夜を  
 左小、靴子一双、池子提子三  
 を備へし



七夜に<sup>ミドリ子</sup>曙の夜を  
 持のその口を  
 膝を

暮月宛の故人  
 川

俵付の面衣の取し  
 中興の多ハ何



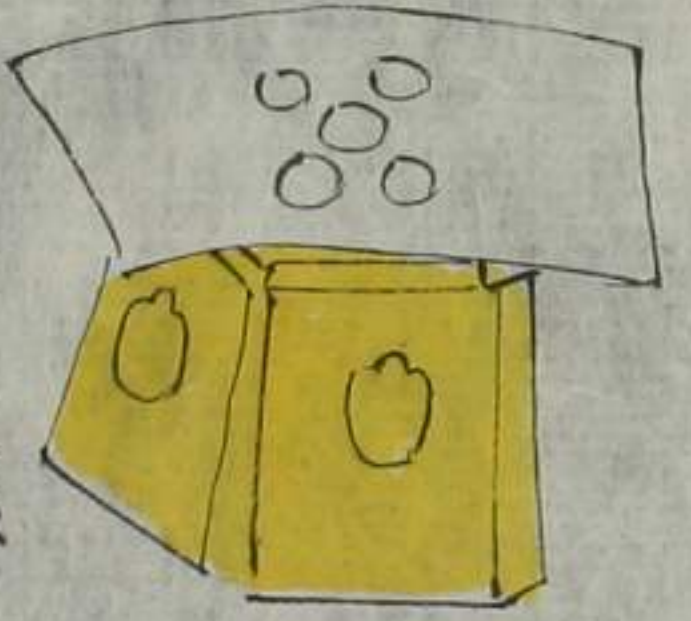
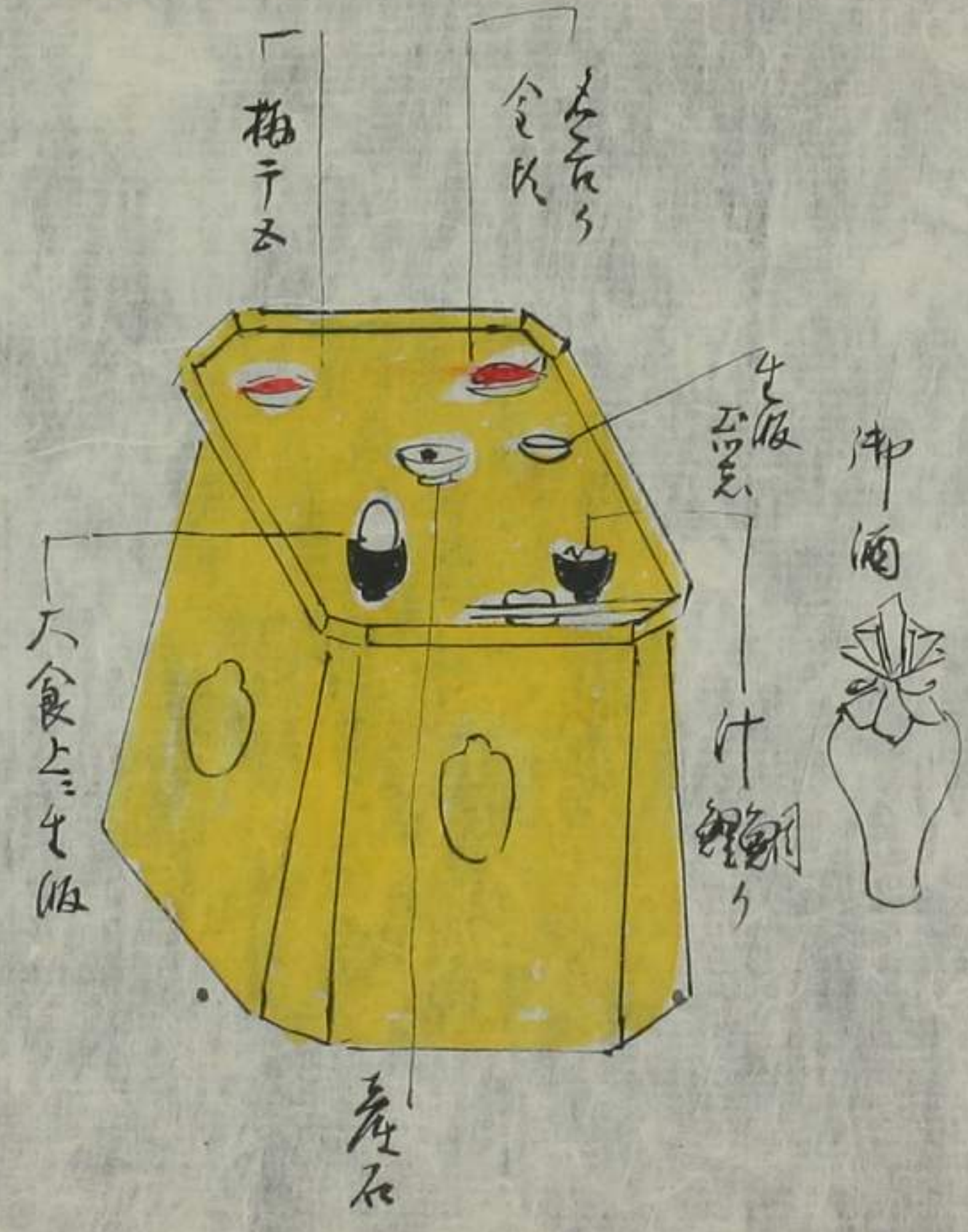
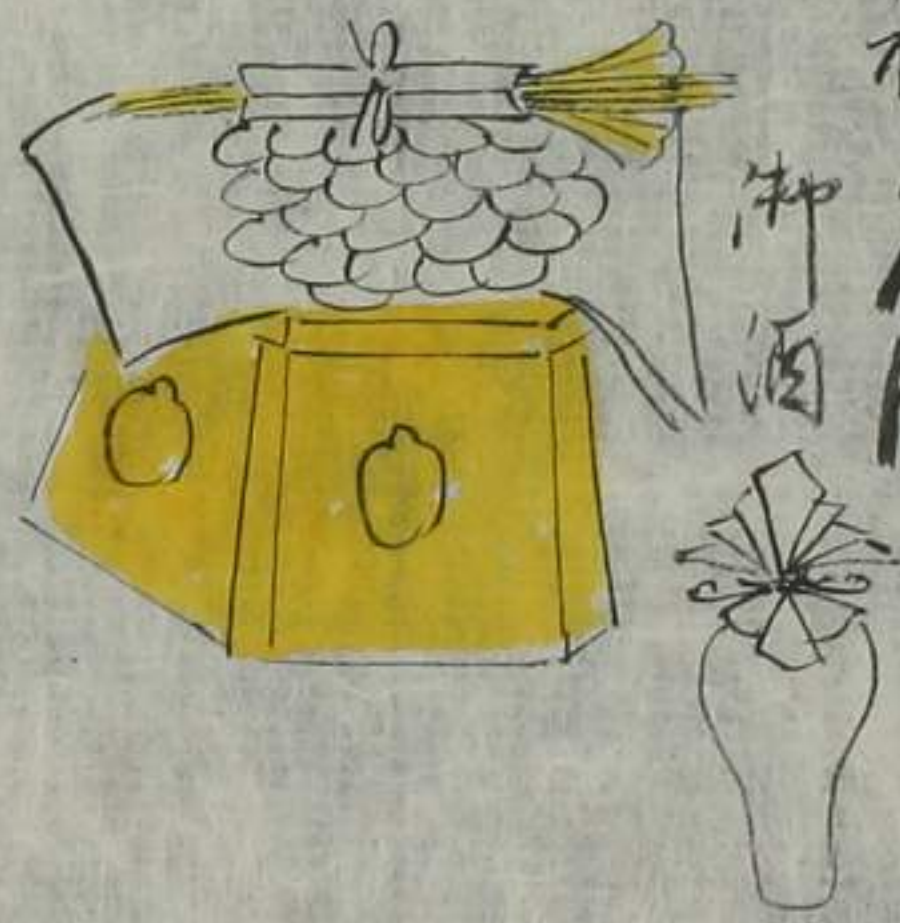


一 折又合能し茶のとり二合ありと行方  
 不足敷の條も又つて女へて公歸不  
 も女とく上を八度平り此布をを  
 及一階を八款中子有又山福松  
 様女表を角してす上を子散  
 免を修りおみと角中も何

一 10日の床積み十日同条の條白  
 丸一折折十合能し又合ありと  
 一 合二條二十ツと女と女と袂取を  
 上を角あり

一 食初床積の婦子解百平上と  
 一 慶中茶末床積の解紙子包あり  
 一 角中を結解一在るあり  
 一 靴子二双あり

食初床積



改を初子茶山積

一 園の條又門公の積出あり  
 一 名甲は積條又是にほりるも  
 一 女子ロイ

延年月

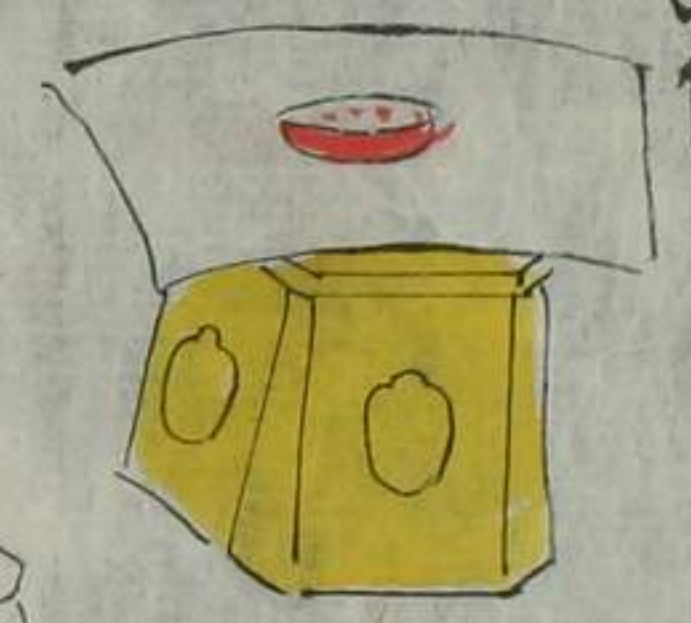
改を初子山楮

八  
一、歯圓の條又門公々、楮出た中、  
身甲子楮條又色に、  
只傳

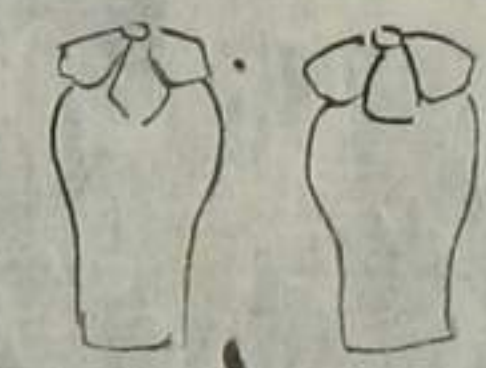
女子口

誕今日

洗米



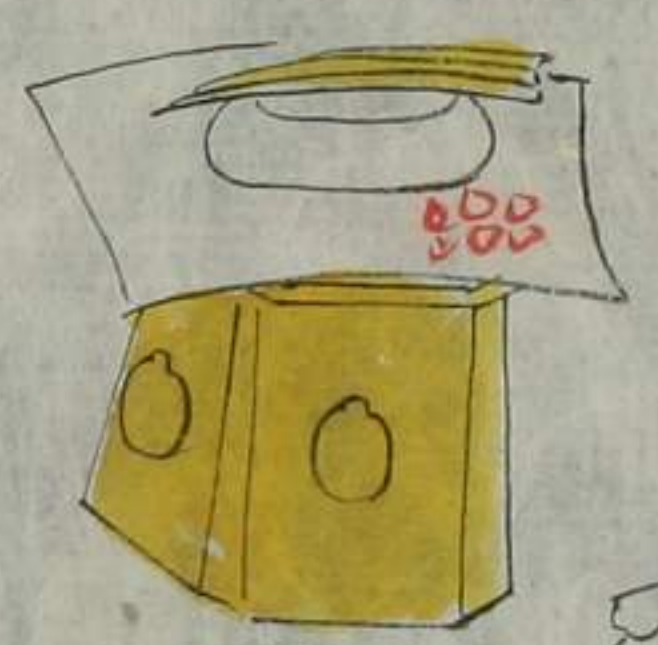
神酒



餅二

栗

昆布



神酒



鬘豆

條三

栗

花布



神酒



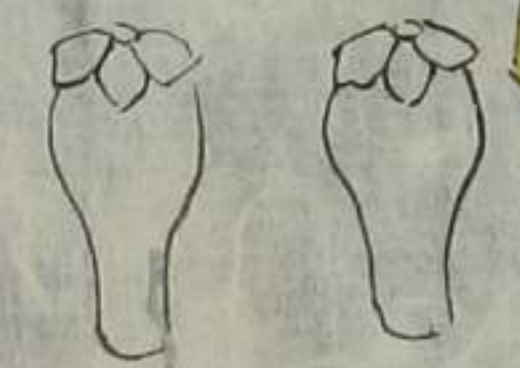
袴忌

餅又

改  
親子葉  
菊天



神酒



赤飯

栗

昆布



一、世不、  
何、  
只傳

元  
帳

條十二



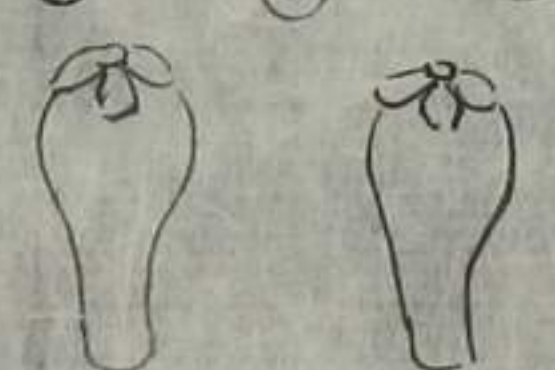


昆布

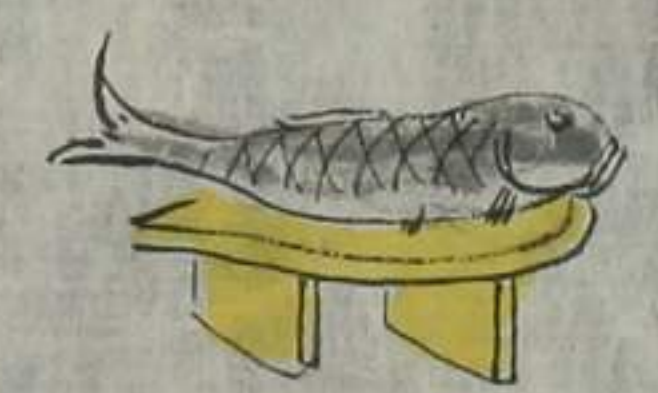
一 世に松心... 和也抱子...  
昆布... 一 世に松心... 和也抱子...  
昆布... 一 世に松心... 和也抱子...

元眼

餅十二  
赤麩  
麩斗



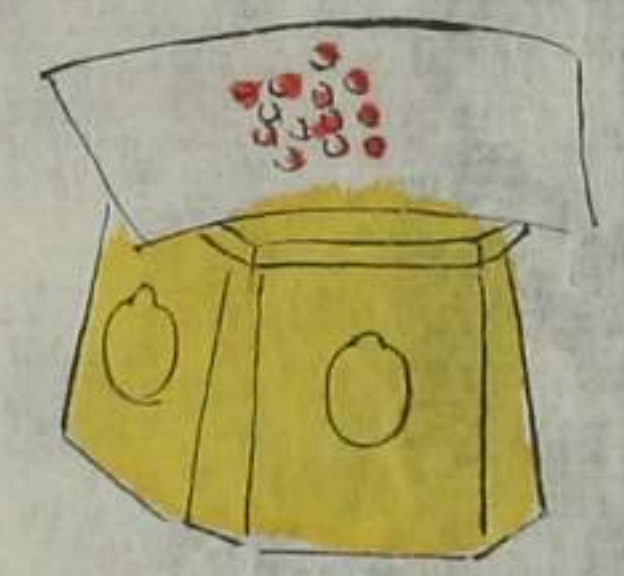
海飯  
赤麩  
麩斗



山... 親... 天...  
山... 親... 天...  
山... 親... 天...

カニ  
ハヤシ  
蟹

栗十六

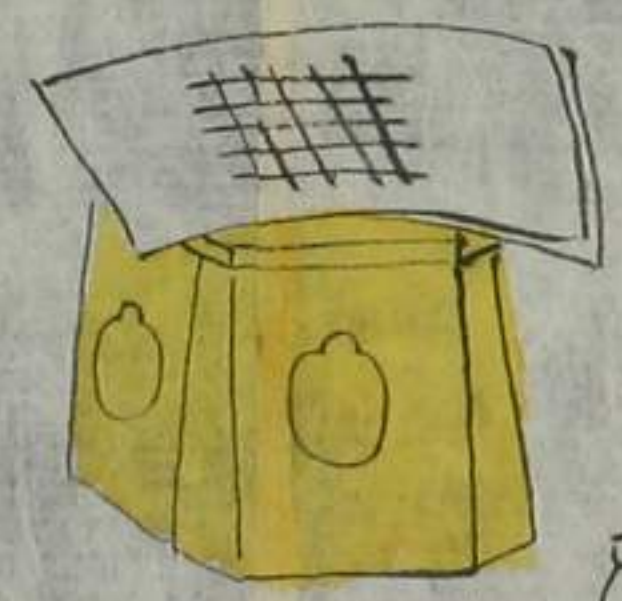


餅十六

麩斗



昆布  
十六



一 賢の祝

幕七席

麩斗

梅十六

親

子

梅



西へは摩多と信知式終て後の  
音をとおさ式三歌を出し  
り有るこて後歌の胎を出さ  
此後不を甲としたり十年月  
祝指おとふ床積ゆり目出  
秋利よ年よ音作ら音を  
又花柳をせら事しあへ一  
只

古歌に

とてののの御子の甲斐の  
は

こころのたーんれハ  
とく月日の物も

清慎<sup>ハ</sup>平賀<sup>ハ</sup>の歌<sup>ハ</sup> モトスケ

とて平賀の物を  
たの羅をこもらあふ  
の

清和の七のそと平賀の歌  
母

かそあははれは  
こもあはの物しそまの  
を

右世言を権杖支法  
必後個化進位櫻  
の是必  
のの者や

ああ  
山本  
山  
女  
川  
女  
川